

Vol.3

2026

甲南女子大学 社会連携事業報告書

Community Connections Projects Report



甲南女子大学 社会連携課

はじめに

地域とともに学び、社会に貢献する女性を育てる——それが本課の使命です。

女子大学ならではの強みと専門性を社会に還元するために、企業、自治体、地域団体との連携を積極的に推進し、学生、教職員が地域の課題に直接向き合い、新たな価値の創造に貢献することを目指します。その連携を通じて、地域社会から信頼され必要とされる教育機関であり続けることは、本課が担うべき大切な役割です。

同時に、このような連携の場は、学生にとってもかけがえない成長の機会です。共同プロジェクトや課題解決型インターンシップを通じて、大学での学びを実践的な「使える力」へと変え、仕事に向き合う真摯な姿勢と広い視野を養いながら、社会人としての基礎をしっかりと築きます。

社会の現場で感じる「自分の力が役に立つ」という実感こそが、学生の成長を後押しする最大の原動力と考えます。

本課は、地域社会とつながりながら学ぶ環境を広げ、志高く社会へと羽ばたく自律した女性の育成とキャリア形成に取り組み、その成果を広く社会に還元してまいります。

甲南女子大学 社会連携担当部長 岩崎 佳孝



基本方針

■ 甲南女子大学 社会連携課ポリシー（基本方針）

(1) 社会連携の推進

企業、自治体、地域団体など、さまざまなステークホルダーとの連携を積極的に推進する。地域社会の課題把握と共同解決に向けたプロジェクトを企画・運営し、女子大学ならではの強みと専門性を発揮できる持続的な連携事業を展開する。持続的パートナーシップの構築に努め、信頼される教育機関としての役割を果たす。

(2) 実践型教育の充実

学生が共同プロジェクト、PBL（課題解決型学習）、インターンシップ等を通じ、学内の学びを社会で発揮できる「使える力」へと深化させる。さらに社会の現場で得られる「自分の力が役に立つ」という実感を重視し、学生の主体性と成長を促す活動を積み重ね、社会の発展に寄与できる自律した女性を育成する。

(3) 社会への還元

社会情勢や地域課題の変化を的確に捉え、女子大学としての強みと専門性を生かした活動を展開する。地域社会との協働を通じて成果を創出し、それを地域社会と本学の持続的発展につなげ還元することで、「地域社会から信頼され、必要とされる女子大学」であり続ける。

産官学連携事業

企業諸団体と、甲南女子大学が連携し、大学の専門性や学生の柔軟な発想が交わることで、単独では生まれなかった新たな価値（商品・サービスなど）を創出しています。



社会学部

甲南女子大学×エム・シーシー食品(株)

ローリングストック品（レトルト食品）を使った 日常から災害時にも活用できる料理のレシピ作成

エム・シーシー食品(株)と人間科学部 生活環境学科※ 境田 可奈子ゼミは、災害への備えを推進するとともに、防災への関心の向上とローリングストック啓蒙のために、レトルト食品を使った日常から災害時にも活用できる料理のレシピ作成に取り組みました。災害時だけでなく、日常においても、食料備蓄やローリングストックについて自分ごととして考え行動するきっかけづくりを推進しています。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

「アレンジレシピ」



養いたい力を実践的な学びを通して
伸ばすことができました。



Message

日常や災害時に役立つ食の知識を身につけ、どんな状況でも健康を保ちながらおいしく食事をする力を養いたいと考え、本ゼミを選びました。実践的な活動、産官学連携を通し、防災と食を結び付け学べる点に魅力を感じています。バッククッキングや若年層向けのレシピ開発に取り組む中で、省エネ・節水・ごみの削減など環境に配慮した調理方法を考える力が身につきました。また、レシピの企画、発信を通して企画力と発信力も高まったと感じます。今後は、防災食や環境に配慮した保存食をテーマに研究を深めたいと考えています。就職活動では、これまで主体的に取り組んできた経験を具体的に伝え、自身の強みとして発信していきたいです。

人間科学部 生活環境学科 ※
4年 N.Y. さん

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

=== 連携先企業からのMessage ===



味の感動を伝える。

レトルト食品等の調理食品を活用した防災・減災の啓発活動をはじめとする社会貢献活動に取り組み、甲南女子大学との連携を通じて、今後も多様な社会連携事業を継続的に展開してまいります。2025年度は、防災イベントへの協賛及びレトルト食品を活用した備えに関するアイデアレシピ開発への協力などに取り組ましました。

連携企業：エム・シーシー食品株式会社



実践で学んだ経験が、私の学びを大きく変え、
夢への思いをより強くしてくれました。



社会学部

甲南女子大学×常盤電機(株)× (株)廣瀬商会×ハイドサイン(株)

産学連携で実現する次世代作業服の開発 学生と企業の共創プロジェクト

常盤電機(株)・(株)廣瀬商会・ハイドサイン(株)と、人間科学部生活環境学科※三宅 肇・小野寺 美和ゼミは、実践型社会連携教育の推進および地域企業への貢献を目的として、常盤電機(株)で使用する作業服の制作に取り組みました。本取組では、現場で働く社員の方々へのヒアリングや業務内容の分析を行い、デザイン案の提案・修正を重ねながら、機能性とデザイン性の両立を目指しました。完成した3着の作業服は、通気性・耐久性・ストレッチ性など考えられた素材を採用し、長時間の作業でも快適に着用できる設計としました。また、現場での視認性や安全性に配慮した配色デザインを取り入れ、従来の作業服のイメージを刷新しています。企業にとっては若い世代の視点を取り入れた企業のブランドイメージの向上につながる取組となりました。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

Message

子どもに携わる仕事を目指して入学し、自分の夢に一步近づける環境で学びたいと考えていました。そんな中、企業と連携した実践的な活動として、廃材を使った衣装制作やファッションショーに挑戦する先輩方の姿に憧れて、このゼミを選びました。

ゼミでの活動を通して、縫製や配色などの専門的な知識はもちろん、相手の立場で考える姿勢やチームで協働する力、自分の考えを分かりやすく伝える力が身についたと感じています。特に作業服のリニューアル企画では、利用者のニーズを意識した提案の大切さを学び、「誰のためのものなのか」を常に考える視点が育ちました。実際の企画では、6つのチームがそれぞれ異なる案を提案し、働く方々の姿を想像しながら、配色やポケットの位置、安全性や機能性を意識して何度も話し合いを重ねました。その中で「なぜ私たちにこの機会が与えられたのか」を見つめ直し、甲南女子大学の学生だからこそ提案できるデザインを追求しました。

企業の方との話し合いを重ねる中で、相手に伝わるように話す工夫も身につき、この経験から衣服への興味はさらに深まりました。今後もこの分野に関わり続けたいという思いが強まり、将来はアパレル業界で活躍し、利用者の視点を大切にしたいものづくりをしていきたいと考えています。

人間科学部 生活環境学科 ※

4年 Y.O. さん

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

=== 連携先企業からのMessage ===

創業120年を迎え、あらたな一步を踏み出すひとつとして作業服のリニューアルに取り組みました。当初は社内で検討していましたが、固定観念にとらわれない柔軟な視点を求め、学生ならではの発想やアイデアに期待し、甲南女子大学の学生の皆さまと共創することを選びました。

社員の声を共有しながら意見交換を重ね、対話を通じて共に考え進めていく過程は、社内では得られない学びにあふれた、非常に充実した時間となりました。この経験を通じて、多様な視点の大切さを実感できる機会ともなりました。本プロジェクトに真摯に取り組んでいただき、期待以上のご提案をいただけたことで、学生の皆さまに依頼して心から良かったと感じています。



連携企業：常盤電機株式会社

社会学部 学生認定団体

甲南女子大学 × 農林水産省近畿農政局 学習・伝承・実践でつなく、 和食文化継承プログラム

農林水産省近畿農政局の「関西 食の『わ』プロジェクト」において、人間科学部 生活環境学科※ 濱口 郁枝ゼミが取り組む「和食文化継承プログラム」が、「プレミア関西 食の『わ』プログラム」に認定されました。

本プログラムでは、大学生が和食文化を学び、その知識を生かして小・中・高校生や親子を対象にした実習指導、献立・和菓子の考案とSNS発信、和菓子の開発・販売などを実施しました。

学生が主体となって和食文化の魅力を次世代へ伝え、「和食の『わ』」を広げる取組を実施しています。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻



—大阪・関西万博に出場—



2025年6月8日・15日、日本国際博覧会（大阪・関西万博）会場において、農林水産省近畿農政局が出展するステージプログラムに、人間科学部 生活環境学科※ 濱口 郁枝ゼミが、「関西 食の『わ』プログラム」認定団体として出展し、「若い世代がつなく和食の『わ』～体験で広げる食文化の継承～」と題して、活動成果を発表しました。

当日は、和食の魅力を「学習・伝承・実践」の3ステップで体験的に理解し、それを通じて次世代への継承をめざす、大学生主体の「和食文化継承プログラム」について紹介しました。

また、本学の学生プロジェクト応援基金認定団体「himawari」および「English♥Time」の学生たちが、イベントの司会進行や海外来場者に向けた通訳を担当しました。学部や団体の枠を越えた協働により、円滑なステージ運営を支えるとともに、国際的な場にふさわしい発信を実現しました。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

Message

ゼミでは、オリジナルで考案した「和食文化継承プログラム」に取り組んでいます。

このプログラムの最大の特徴は、大学生が主体となって和食文化の継承に関わっている点です。学生自身が和食の魅力を体感するために、学習・伝承・実践という段階的な活動を行い、その魅力を後進世代や社会へ広く伝えていきます。だしの味わいを学び、簡便な和食の献立を考案しSNSで発信する、和菓子を考案して販売化するなど、国・地域・企業との連携によって実践性と社会的広がりをさらに高めています。これらの成果はSNSを通じて可視化され、学生の自信や達成感にもつながっています。

とりわけ、農林水産省近畿農政局「プレミア関西 食の『わ』プログラム」に選出されたことは、本プログラムの取組が社会的に評価され、学生にとって大きな励みとなりました。さらに大阪・関西万博へ出場し、活動内容を発表できたことは、学生・教員にとって忘れられない貴重な経験となりました。



社会学部 総合社会学科
生活環境学専攻 教授 濱口 郁枝



甲南女子大学× 兵庫県多可郡多可町 播州百日どりでつなぐ、 学びと地域、食の未来

医療栄養学部 医療栄養学科 東根 裕子ゼミでは、特産品である「播州百日どり」を活用したレシピ開発に取り組みました。本取組では、多可町での現地調査を実施し、JAみのり養鶏所や道の駅等を訪問して生産背景や食文化への理解を深めました。その経験を基に、「高齢者や子どもにも食べやすい」「簡便性」「兵庫県産食材の活用」を重視したレシピを開発しました。また、官能評価を塩焼き・煮物・タンドリーチキンの3種のレシピで実施し、播州百日どり特有のコリコリとした食感が評価され、こうした評価結果をもとに、食感を生かす加熱時間や切り方の工夫を凝らし、親しみやすいアレンジレシピなど、播州百日どりの魅力を最大限に引き出す調理法について考察しました。



オリジナルレシピ/
百日どりのチーズステーキ



地域に入り、地域と学ぶ。 多可町地域再生プロジェクト

本学と多可町との包括連携協定による地域再生プロジェクトの一環として、学生10名が多可町に滞在し、「若い女性が選ぶ町に」をテーマに、滞在型ワークショップを実施しました。実際に町で滞在しながら、「公共交通」「働く場所」「林業」「農業」「子育て」など各分野に精通した方々から実態を学び、テーマに対し、それぞれの分野から考えられる原因・課題を追究しました。滞在を通して体感した町の魅力と課題をもとに、町内で成果発表会を開催し、行政関係者や地域住民の方々を前に、若い世代の視点から具体的かつ実行可能性を意識した提案を行いました。



Message

医療栄養学部 医療栄養学科では、学部設置の翌年2019年から多可町での活動を始めました。初年度は鶏の解体を通じて、命の大切さを学びました。翌年は多可町の地元食材（野菜や根菜類）を使ったレシピを1年生・2年生が開発し、冊子にまとめて八千代地区の住民の方と町役場での配布を行いました。コロナ期間中は、訪問は難しくなりましたが、活動を続けました。2025年度の取組が「播州百日どり」となり、現地の鶏舎見学時には、車両ごとの消毒や飼育環境のこだわりなど、学生にとって初めての現場体験は大きな学びとなりました。研究を通して、食材の背景を知ることの重要性や、産地との協働が教育効果を高めることを実感しています。今後も地域連携を活かした学びを発展させていきたいと考えています。



医療栄養学部 医療栄養学科
教授 東根 裕子

【材料/2人前】

ズッキーニ	60g	トマト缶	180g
赤パプリカ	40g	コンソメ	6g
黄パプリカ	40g	播州百日どりもも肉	3g
タマネギ	60g	塩コショウ	適量

【作り方】

鶏ステーキニ、赤パプリカ、黄パプリカ、タマネギを食べやすい大きさに切る。
鶏トマト缶、コンソメは耐熱容器に入れて混ぜる。
鶏一口大に切った鶏もも肉は、鶏コンソメで下味をつけ①に入れて混ぜ、ふんわりラップし、500Wの電子レンジで6分加熱する。
鶏切った野菜を②に加え、さらに3分30秒加熱する。
鶏③を電子レンジ内で3分置き、余熱で火を通したらできあがり。

JAみのり管内の

直売所に足を運んで、

「地元のめぐみ」を

今夜の食卓に

並べてみませんか。



甲南女子大学生×JAみのり



特産百日どりの
ラタトゥイユ



Message

私は生まれも育ちも兵庫県ですが、このプロジェクトを通じて初めて多可町を知り、県内にはまだ自分の知らない魅力が多くあることを実感しました。自然豊かな多可町の未来を守る一助になりたいという思いから、本プロジェクトに参加しました。

活動では、多可町に宿泊して行ったフィールドワークや、役場の方々との意見交換を通して、自分たちで課題を見つけ、向き合う経験を重ねました。当初は学生らしい自由な発想に偏っていましたが、行政の制約や現場が抱える実情を伺うなかで、理想と現実のバランスを踏まえた提案づくりの重要性を学びました。意見が分かれた際にも、多可町の未来を第一に議論を重ね、一つの方向性にまとめた経験は大きな糧となりました。こうした経験で得た「課題を適切に捉える力」や「合意形成を図る力」を活かし、今後も現場の声を大切にしながら、多様な方々と協働して価値を生み出せる人を目指したいと考えています。



文学部 日本語日本文化学科
4年 S.M.さん

社会学部

甲南女子大学 × (株)ワコール

産学連携プロジェクトで 学生が選んだデザインのガードルを商品化

人間科学部 文化社会学科※ 米澤 泉ゼミでは、(株)ワコールと連携し、若年層に向けて、学生が選んだデザインのガードルを商品化しました。

ガードル未経験の学生が実際にフィッティングを体験し、着后感や魅力を自分の言葉で捉えるところからスタート。学生の好みやトレンドをデザインボードで共有し、それをもとにワコールのデザイナーが提示した複数の候補から、学生が中心となって最終デザインを決定しました。流行のバレエコアを取り入れた柄やパステルカラーなど、学生の「好き」が詰まった商品が誕生しました。さらにECサイトでの販売促進に向け、学生が考えたキーワードや表現も商品ページに採用され、企画から発信までを実践的に学ぶ機会となりました。

※現 社会学部 総合社会学科 メディア社会学専攻



おふろ部

supported by NORITZ



社会学部

甲南女子大学 × (株)ノーリツ

× 神戸市水道局 × 伊丹市

おふろ文化を、未来へつなぐ 産官学とともに考える、おふろの未来。

人間科学部 生活環境学科※ 松村 俊和ゼミでは、湯まわり設備メーカー(株)ノーリツ、神戸市水道局、伊丹市グリーン戦略室と連携し、おふろ文化を持続可能な形で次世代へ継承するとともに、ウォームビズの推進に寄与することを目的に、「おふろ部」の活動を行っています。

おふろ部は、日常の暮らしに欠かせないおふろの価値を改めて見つめ直し、学生ならではの視点でワークショップを開催するなど情報発信を行っています。ワークショップでは、植物の精油を使った入浴剤づくりなども実施しています。今後は未来の暮らしや社会を見据えながら、「おふろのここがいい」、「こんなおふろがあったらいい」といった声をかたちにし、おふろ文化のこれからを考えていきます。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

国際学部

甲南女子大学 × いのち会議

すべてのいのち輝く未来社会実現のために

国際学部 多文化コミュニケーション学科 高橋 真央ゼミと学生プロジェクト応援基金認定団体「T×SDGs」では、大阪大学を中心に推進する「いのち会議」のユースチームの活動に参加し、学生同士の交流や社会課題に関する実践的な学びを深めています。

2025年10月には、大阪・関西万博で開催された「いのち宣言フェスティバル」に参加し、「若者と考える『社会課題と未来社会』」をテーマに、本学の学生に加え、千葉大学・岡山大学・大阪大学・同志社大学の学生とともに登壇しました。各大学が取り組む社会課題に関する活動や、それに寄せる思い、未来社会への希望について、パネルディスカッション形式で発表しました。学生たちは、大学を越えて意見を交わし、多様な視点から未来社会の可能性を探る貴重な機会となりました。



いのち会議 INOCHI FORUM





社会学部

甲南女子大学 × (株)ラボネットワーク

デジタル時代における写真価値の再構築 「カタチに残す」ビジネスモデル開発

人間科学部 生活環境学科※ 吉田 有里ゼミでは、(株)ラボネットワークと連携し、写真の新たな価値創出を目指した商品・ビジネスモデルの研究に取り組みました。スマートフォン時代における「カタチに残す写真」の魅力に着目し、「シャカシャカシール」や「韓国風セルフフォト」を題材とした手作りワークショップを通じて、その可能性を探りました。引き続き改良と検討を重ね、写真に新たな価値をもたらす持続可能なビジネスモデルの構築を目指していきます。

※現 社会学部 総合社会学科 ビジネス社会専攻

= 企業課題解決プログラム =



大学コンソーシアムひょうご神戸では、大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充と情報共有・ネットワーク体制の構築を目的に、加盟校を対象に、「企業課題解決プログラム」を提供しています。

本学では「文学部 日本語日本文化学科 和田 綾子ゼミ」、「国際学部 多文化コミュニケーション学科 永野 均ゼミ」が本事業に参画しました。

文学部

甲南女子大学

× (株)ロジックアンドサプライズ

「伝わる日本語」で地域をつなぐ 「やさしい日本語」ツーリズムによる地方創生

文学部 日本語日本文化学科 和田 綾子ゼミでは、(株)ロジックアンドサプライズと連携し、地域の伝統や産業など地域資源を掘り起こし、その魅力を「伝わる日本語」で広く発信することを目指しました。

2025年度は、取材をとおして淡路島の洲本市や南あわじ市などの魅力を再発見・再価値化し、それを体験型のツアーに組み立てて、「淡路島とヒトとモノ」を「やさしい日本語」を使いながら紹介します。地域の知られざる良さを発見し、自然、食、文化、そして人のぬくもりを組み込んだ「消費」ではなく「共感」の「旅」の提案と、「やさしい日本語」による発信に取り組んでいきます。



国際学部

甲南女子大学 × (株)TAT

ネイルサロン利用率向上を目指した ネイルビジネスの新たな視点の創出

国際学部 多文化コミュニケーション学科 永野 均ゼミでは、(株)TATと連携し、ネイル業界発展における課題である「ネイルサロンの利用率の向上」に着目し、ネイルビジネスの新たな視点の創出として、「ネイルサロン市場の拡大に向けた2つの戦略」を発表しました。学生ならではの視点と実現可能性が高いビジネスモデルとして注目を集めました。

参加した学生にとっても、今回の発表ではチームワークや練習の成果に手ごたえを感じ、講評や激励が自信にもつながる貴重な機会となりました。



地域連携事業

企業諸団体・地域住民と協力し、地域課題の解決や活性化を目指し取り組みます。
教育・研究の成果を地域に還元するとともに、
学生の実践的な学びや人材育成につなげています。

社会学部

甲南女子大学 × 神戸市東灘区

レクリエーションスポーツで育む、子どもの健康と笑顔 夏休み子どもいろいろ体験プログラム

2025年7月28日（月）、東灘区主催の「夏休み子どもいろいろ体験プログラム」を、甲南女子大学キャンパスにて開催しました。本プログラムは、本学と神戸市東灘区が締結する地域連携協定に基づき、区内の小学生を対象に実施したものです。
当日は、スポーツ・レクリエーション分野を専門に学ぶゼミ生が中心となり、オリジナルの工作づくりやレクリエーションスポーツ体験を企画・運営しました。キャンパス内には、笑顔や歓声が広がり、夏休みならではの活気あふれる一日となりました。世代を超えた交流を通じて、地域とのつながりを実感するとともに、大学での学びを社会に還元する意義を改めて確認する機会となりました。



チームで力を合わせ、和洋の良さが光る
新しいお菓子を作りました！

和のこころ、洋の技。「秋の和さんぽプレート」 神戸ひがしなだスイーツめぐり

人間科学部 生活環境学科※ 濱口 郁枝ゼミは、東灘区の恒例イベント「神戸ひがしなだスイーツめぐり」の大学生コラボ企画として、スイーツ店「ショコラリパブリック」と連携し、オリジナルスイーツの開発に取り組みました。学生10名で試作や意見交換を重ね、秋の味覚を和テイストで楽しめる「秋の和さんぽプレート」3点セットを完成させ、2025年10月25日（土）、26日（日）に開催された大学祭「よつば祭2025」で学内カフェにて販売しました。学生自身が接客にも携わり、地域イベントとの連動企画として発信しました。当日はイートイン・テイクアウトともに完売し、多くの来場者から好評を得ました。本取組は、地域企業との協働を通じて商品開発のプロセスを実践的に学ぶとともに、地域活性化への貢献や発信力の向上につながる機会となりました。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻



Message

和菓子は自然とのつながりを大切に、季節の移ろいをお菓子として表現し、五感で楽しむ文化があります。しかし、近年は和菓子を食べる若者が減少しています。そこで、日本の和菓子と西洋の洋菓子を組み合わせた「和洋菓子」を考案しました。
3種類それぞれに異なる色や形を取り入れ、統一感を保ちながらも個性が感じられるよう、全員で話し合いながら細部まで工夫を重ねました。当日は来場者の方から見た目や味について多くのお褒めの言葉をいただき、取組の成果を実感することができました。

人間科学部 生活環境学科 ※

4年 A.M. さん

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

甲南女子学園

子ども達へ、お花、音楽、工作の体験会 秋のアートフェスティバル

2025年11月2日（日）、本学と甲南女子中学校・高等学校は、阪急西宮ガーデンズにて秋のアートフェスティバルを実施しました。本イベントは、来場した子どもたちに日本文化や創作活動の楽しさを体験してもらうことを目的に開催され、会場では楽器演奏体験、生け花、工作など多彩なプログラムを実施しました。参加した子どもたちは、本学園の生徒・学生と楽しみながらも真剣に製作に取り組み、楽しいひとときを過ごしました。また、ステージでは甲南女子中学校・高等学校コーラス部による公演や、甲南女子大学チアリーディング部による演舞が行われ、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。本学からは、「アロマテラピー部」、「子どもボランティア部」、「チアリーディング部」、「放送部」、「人間科学部 生活環境学科※ 吉田 有里ゼミ」、「社会連携課 学生スタッフ 'himawari」が参加し、世代を超えた交流を通じて、本学園の魅力を発信するとともに、教育・課外活動を広く知っていただく機会となりました。

※現 社会学部 総合社会学科 ビジネス社会専攻



教育学部 中高連携

甲南女子学園 × 甲南大学

地域とともに家族の笑顔を創る キッズフェスティバル

2025年12月14日（日）、本学と連携協定を締結している甲南大学主催の「キッズフェスティバル2025」に、本学園が出展しました。甲南女子大学と甲南女子中学校・高等学校が合同で参加し、子どもたちの創造性を育むことを目的としたぬり絵のワークショップを実施しました。当日は、人間科学部 総合子ども学科※ 内藤 由佳子ゼミの学生がスタッフとして参加し、来場した子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、色の塗り方を一緒に考えたり、作品について会話を交わしたりと、温かな交流の場となりました。会場には親子連れを中心に多くの方が来場し、ブースは終始子どもたちの笑顔と歓声に包まれ、大変な賑わいを見せました。本学園が一体となって取り組む本活動を通じて、地域に開かれた教育の場としての役割をあらためて感じる機会となりました。

※現 教育学部 子ども教育学科



「高大連携教育が進化」

学園全体で「生徒の可能性を広げる教育環境」を構築



甲南女子大学と甲南女子中学校・高等学校は、「探求学習プログラムT」を通じて高大連携教育を強化しています。中高6年間を通じて主体的な学びを育むことを目的とし、特に高校では大学 教員による専門的な講座が展開されています。大学の設備を活用した実験や対話を通じて、生徒は早期から専門的な学びに触れ、「心理学実験」「写真表現」「環境科学」など多彩な講座で探求心を育てています。この取組は「自立した女性の育成」という学園の理念にも根ざしており、進路やキャリア形成にもつながる貴重な学びの場となっています。今後も高大連携をさらに深め、「オール甲南女子」で教育環境の充実を図ってまいります。



社会連携課 学生認定団体 学生有志

甲南女子大学 × 芦屋交響楽団

西日本最大級の響きで、想いをひとつに。
クリスマスチャリティコンサート

2025年12月20日（土）、西日本最大級のパイプオルガンを備える本学芦原講堂を会場に、今年もクリスマスチャリティコンサートを開催いたしました。阪神・淡路大震災を経験した大学として、被災地支援や防災活動に継続的に取り組んでまいりました。

本公演では、芦屋交響楽団と、オルガニスト・土橋薫氏（本学非常勤講師）による、オーケストラとパイプオルガンの豊かな響きが織りなす演奏をお楽しみいただきました。当日の募金は、必要経費の一部を除いた全額を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」（心のケアプログラム、交流活動、キャリア支援など）へ寄付いたしました。趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜り誠にありがとうございました。



社会連携課 学生認定団体

甲南女子大学 × 甲南大学 × (株)神戸新聞社 × トヨタ自動車(株)

人の手によって再生された自然を守り、
未来へ引き継ぐための課題を学ぼう

2025年10月26日（日）、神戸新聞社主催「TOYOTA SOCIAL FES!! 2025『都市山』六甲山について学び、貴重な自然を守り継ごう」に、社会連携課 学生スタッフ 'himawari' が参加しました。神戸市北区の再度公園で開催され、'himawari' の学生と甲南大学 Bamboo に Thank you Project の学生が協力し、イベントを盛り上げました。

'himawari' は、「地震と土砂災害に関連した防災クイズ」や、トヨタ自動車制作した「カーボンニュートラルに関する紙芝居」を実施しました。子どもから大人まで楽しみながら学べる内容とし、六甲山など山林地域における災害時の備えや、環境保全の大切さについて分かりやすく啓発しました。



社会連携課 学生認定団体

甲南女子大学 × 神戸トヨペット(株)

つくって、学んで、未来につながるエコ体験
レジンアクセサリーづくりワークショップ

2025年10月25日（土）、社会連携課 学生スタッフ 'himawari' が、神戸トヨペット(株)と協働して、大学祭「よつば祭2025」にて、トヨタ自動車が開発した二酸化炭素を排出しない究極のエコカー「MIRAI」を使用した給電デモンストレーションと、レジンアクセサリーづくりのワークショップを実施しました。

本学は神戸トヨペット株式会社と包括連携協定を締結しており、地域社会の発展と、その基盤となる人材育成への貢献を目的に、さまざまな連携・協力を積極的に推進しています。今回の取組も、持続可能な社会の実現に向けた教育活動の一環として実施したものです。



甲南女子大学

学生の手で創る小さな子どもたちの音楽劇 第19回 総合子どもカーニバル

2025年12月20日（土）、本学にて、第19回総合子どもカーニバルを開催しました。

地域の園児や小学生を招き、はじめは学生たちが脚本作成から大道具まで全てをゼロから創り上げた音楽劇「まほうのがっきとおんがくのくに」を鑑賞してもらいました。伝説の楽譜を探して明るい街を取り戻すというお話の中で、楽器演奏やダンスなどを楽しみました。

劇の後は、人間科学部 総合子ども学科※の3年生ゼミや子どもボランティア部が準備した様々な企画を回りました。巨大迷路、クリスマス飾り作り、楽器の体験、魚釣りや吹き矢のゲーム、顕微鏡クイズ、輪投げやボール投げなど、たくさんのお楽しみ企画に、子どもたちは笑顔いっぱいに参加してくれました。

※現 教育学部 子ども教育学科



甲南女子大学 × 海上自衛隊 阪神基地隊

学生の音色で、基地と地域をつなぎ 海のまちに笑顔をお届け。

2025年7月13日（日）、神戸市東灘区にある海上自衛隊 阪神基地隊にて、「阪神基地隊 フリートフェスタ2025」が開催されました。

本学からは、管弦楽部および軽音楽部が出演し、特設ステージにて演奏を披露しました。

クラシックから親しみやすい楽曲まで幅広いプログラムで会場を盛り上げ、来場者からは大きな拍手が送られました。

学生たちの演奏は、来場者に音楽の楽しさを届けるとともに、地域イベントを彩る一助となり、基地と地域、そして大学をつなぐ貴重な交流の機会となりました。



甲南女子大学 × テレビ大阪 (株)

地域とつながるステージ 笑顔とエネルギーで、神戸の街を元気に。

2025年4月6日（日）、本学チアリーディング部とアイドル研究部が地域貢献活動の一環として、「KOBEサンシャインフェス〜キッチンカーコレクションplus〜」に参加し、特設野外ステージでのパフォーマンスを披露しました。

当日は両クラブ団体ともにステージで演舞を披露し、多くの観衆に見守られ大盛況のうちに終了しました。参加学生は、解放感のあるステージで活動できたことにすがすがしい気持ちを感じ、多くの方々に見ていただけたこと、楽しんでもらったことに大変喜んでいました。このイベントを通じて、両団体ともに地域の皆さまと交流し、日頃の練習の成果を発揮することができました。地域の皆さまに楽しんでいただけたことが、参加学生にとって大きな励みとなり、今後の活動へのモチベーションにもつながっています。



防災連携事業

大学・企業諸団体・地域と連携し、地域の防災力向上を目指し取り組んでいます。
 防災・減災について実践的な学生の学びを地域に還元するとともに、
 災害に強い地域づくりや学生の学びに貢献しています。

社会学部 看護学部 社会連携課 学生認定団体

甲南女子大学主催 ぼうさいフェアvol.1 ~自分で守るいのち、みんなで守るいのち~

防災を“知識”としてだけでなく、
 “行動”として考える大切さを学びました



阪神・淡路大震災で被災した大学として、これまで被災地支援や防災・減災に関する活動に取り組んできた本学は、2025年9月13日（土）に初の試みとして、連携協定を締結する神戸トヨペットなどの企業諸団体と連携・協力し、防災・減災に関するイベントを開催しました。
 本イベントでは、日常から防災・減災への意識を高めるとともに、防災・減災のために準備・行動できることへの理解を深めるきっかけとして、「衣・食・住」にスポットを当てたコンテンツを提供しました。
 人間科学部 生活環境学科※ 三宅 肇教授・小野寺 美和准教授や同学科※ 境田 可奈子ゼミ、看護学部 看護学科 松岡 千代教授、社会連携課 学生スタッフ 'himawari'が参加し、来場者参加型のワークショップの実施や企業諸団体による防災・減災を考えた内容の展示のほか、「(株)危機管理教育研究所 代表 国崎 信江氏」による講演などを実施しました。多くの方にご参加いただき、「防災意識の向上につながった」等、お声をいただきました。本学では、引き続き企業等諸団体と連携しながら地域貢献として、女性視点でのやさしい支援などに取り組んでいきます。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻

- 協賛 | 神戸トヨペット株式会社
 エム・シーシー食品株式会社
 富永貿易株式会社
- 後援 | 西宮市
- 協力 | 西宮市瓦木消防署
 株式会社日興商会
 株式会社キングジム
 株式会社クラウングループ



Message

「大学生になったら新しいことに挑戦したい」という思いから、企業と連携し、実践的な活動に取り組む「himawari」に強く惹かれたことがきっかけで参加しました。
 活動を続ける中で、周りをよく見て行動する力や、課題を見つけて改善につなげる力が大きく伸びたと感じています。現在は、代表として活動しており、チームをまとめる経験を通して、メンバーの声を大切にしながら企画を形にしていく姿勢が身につきました。
 今後も活動で培った「周囲と対話しながら主体的に行動する姿勢」を活かし、チームがより良い方向に進むよう積極的に貢献していきたいと考えています。

人間科学部 生活環境学科 ※
 4年 Y.M. さん

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻



社会学部 社会連携課 学生認定団体

甲南女子大学 × (株)KUL

『楽しく学ぶ、もしもの備え。』
見て・着て・作って学ぶ防災。

2025年10月5日（日）、本学の包括連携協定先である(株)KUL主催の防災イベント「第4回アクタあそBOSAI」が開催され、本学の学生および教職員が参加しました。

人間科学部 生活環境学科※ 三宅肇教授・小野寺美和准教授のブースでは、安全確保を目的とした視認性の高い素材を用いたベストの着用体験と展示を行いました。また、同学科※境田可奈子ゼミでは、減災について楽しく学べるカードゲーム「カードで楽しく学ぶ!『防災食』」を実施しました。さらに、社会連携課 学生スタッフ 'himawari'による新聞紙を活用した防災ワークショップも行われました。

本イベントを通じ、参加者は防災について考えるきっかけを得るとともに、本学で学んだ知識を地域へ還元することで、「災害の備え」として今自分たちに何ができるのかを地域とともに考える機会となりました。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻



社会連携課 学生認定団体

甲南女子大学 × 兵庫県川辺郡猪名川町

産官学が集う防災訓練で学生の学びを活かす
実動防災訓練

2025年10月18日（土）、兵庫県川辺郡猪名川町の実動防災訓練が実施され、社会連携課 学生スタッフ 'himawari' が参加しました。

本イベントでは、大雨による土砂災害を想定した大規模な総合防災訓練が実施され、消防、自衛隊、警察、施設内企業、大学などが連携し、救助活動や物資輸送訓練、事業者による給食配食訓練が行われました。防災ブースの出店や車両展示もあり、住民が見て・触れて・学べるイベントとしても開催されました。'himawari' が司会進行を務め、イベントブースでは、「土砂災害を想定した防災に関するクイズ」を実施し、土砂災害から生命を守るために、一人ひとりが日頃から備えておくことの重要性について啓発しました。



社会学部 社会連携課 学生認定団体

甲南女子大学 × NPO法人プラス・アーツ × HAT神戸

楽しみながら学ぶ、次世代へつなぐ防災体験
イザ!美かえる大キャラバン!

2026年1月25日(日)、HAT神戸連携防災イベント「イザ!美かえる大キャラバン!2026」に、本学の学生と教職員が出展し、体験型防災プログラムを通して来場者の防災意識向上に取り組みました。

人間科学部 生活環境学科※ 境田 可奈子ゼミは、「災害時の食」をテーマに、ゼミで考案したオリジナルカードゲームを実施し、備蓄食品の選び方やライフライン停止時の食の工夫について楽しく学べる機会を提供しました。社会連携課 学生スタッフ 'himawari' は、防災グッズ作成ワークショップを行い、学生プロジェクト応援基金認定団体「English♥Time」では英語を使ったゲームやクイズを通して、海外の方々への災害対応の紹介と来場者への英語学習の場を提供しました。

当日は幅広い世代が参加し、楽しみながら防災を自分ごととして考えるきっかけとなりました。

※現 社会学部 総合社会学科 生活環境学専攻





ボランティア活動

ボランティア活動を希望する学生に対し、さまざまな活動情報を紹介するとともに、事前ガイダンスから活動後の振り返りまでを一貫して支援しています。一人ひとりの興味・関心に合った活動を提案し、参加した経験が確かな成長につながるよう、活動の過程や成果を記録・確認できる仕組みを整えています。

ボランティア活動を通して、
人との関わり大切さを学びました



学生有志

甲南女子大学×ボランティア活動

挨拶から始まる成長。ボランティアで広がる可能性。

Message

ボランティア活動を通じて、自主性が身に付きました。活動を始めた当初は活動先の指示に従うばかりでしたが、参加する回数を重ねる中で、周りの人たちの動きを見て自ら考えて行動し、わからないことは積極的に質問するようになりました。また、新しいことに挑戦する力も身に付きました。地域のイベントにボランティアとして参加したことをきっかけに、イベントを運営する事務局の仕事にも興味を持つようになりました。ボランティアとして参加する側からボランティアをまとめる側に立ちイベントの運営に携わったことは、自分の成長につながる経験となりました。自主性や挑戦する力、コミュニケーション力など、ボランティア活動を通して身に付けた力はたくさんありますが、ボランティア活動の経験を通して、改めて挨拶をすることの大切さを学びました。

つい疎かになりがちな最初の挨拶ですが、自分から明るく挨拶をすることが相手の方との距離を縮める大切なきっかけとなり、円滑なコミュニケーションが取れるようになると実感しました。今後のキャリア生活においても挨拶を大切に、周囲の人との関係を構築していきたいです。

卒業生 M.Y. さん

(2026年3月 人間科学部 文化社会学科※卒業)

※現 社会学部 総合社会学科 メディア社会学専攻



阪神淡路大震災追悼行事の様子

Message

活動先である学習支援塾の生徒さんの中には、経済的な理由で塾に通えない方をはじめ、発達特性傾向、勉強や人間関係への不安、不登校傾向など、様々な事情を抱える方がおります。これらの心配や不安の背景には、学校における個別対応の限界や地域性が関わっていると気が付きました。この気づきは心理実習の経験とも重なり、教育現場が直面する課題や対応策、教育のあり方について、自分事として深く考える機会となりました。以前、生徒さんが学校で感じたことを率直に話をしてくれて、心を開ける場だからこそ話してくれたのではないかと思います。



人間科学部 心理学科※
4年 M.K.さん

※現 心理学部 心理学科

本活動の中心は「こどもの居場所」を作ることです。「この場所なら」「この人になら話してもよいかもしれない」という最初の安心感が生まれるように、これからも心理学の学びを深め、学んだ知識を子どもへの理解や配慮、環境調整に活かしていきたいと考えています。

本活動の中心は「こどもの居場所」を作ることです。「この場所なら」「この人になら話してもよいかもしれない」という最初の安心感が生まれるように、これからも心理学の学びを深め、学んだ知識を子どもへの理解や配慮、環境調整に活かしていきたいと考えています。



ボランティア活動先の学習支援塾の様子

一歩踏み出す経験が、成長につながる、活動の幅が広がる！！

ボランティアプログラムについて

～学生の「やってみたい」を大切に、ボランティア活動を応援しています～

ボランティアコーディネーションについて

社会連携課では、ボランティア活動を希望する学生にさまざまなボランティア情報を紹介するとともに、事前ガイダンス、成長の確認、振り返りまでを一貫して行い、活動を通じた成長およびキャリア形成を支援しています。一人ひとりの興味や関心に合った活動を紹介します。活動への参加が成長につながるよう、その過程や成果を記録・確認できる仕組みを整えています。

活動をとおして成長できる7つポイント

社会連携課が紹介しているボランティア活動は、地域の方々や団体の皆さんとしっかり連携しながら、学生一人ひとりの「学び」と「成長」につながることを大切に企画・運営しています。ただ体験して終わりではなく、社会とのつながりの中で自分の役割を考え、主体的に学べる機会になるよう、活動内容や関わり方、学びのポイントを丁寧に設計しています。また、本学では、活動内容を「3つの原則」と「7つの成長ポイント」に基づいて整理しています。これにより、どんな力が身につくのか、どのような成長が期待できるのかを活動先ごとにわかりやすく確認でき、自分の興味や将来の目標に合わせて、目的をもって活動に参加することができます。

ボランティア活動の3つの原則



ボランティア活動における単位認定

ボランティア活動は、単位として認定されます。ボランティア活動等によって獲得したポイントは、ボランティアカードに加算され、所定のポイントに達すると単位認定の申請ができます。※看護リハビリテーション学部・医療栄養学部は、対象外 ※この単位は、卒業単位には含まれず、ボランティア活動単位認定規定による認定科目となります

学生ボランティア募集の手続きの流れ

ボランティア募集を希望される団体の皆さまからの相談に応じています。ボランティア情報の掲載や、ポスター掲示、チラシの配架をご希望される場合は、以下の流れで団体登録を行っていただく必要があります。ご協力ください。



Step1

ボランティア団体の活動の選定基準の確認

右記の甲南女子大学HPより、ボランティア団体登録・活動の選定基準などをご確認ください。

Step2

「団体登録」申請

選定基準に合致する場合、「団体仮登録シート」および、「ボランティア募集シート」にご入力の上、ご提出ください。各申請されたシートを、本学の基準に照らし厳正に審査いたします。なお、新規にご登録いただく団体様には、面談をお願いしております。

Step3

対面またはオンラインによる面談の実施(新規団体のみ)

- ・「組織概要がわかるパンフレット」「団体の規約や定款、約款」などをご提出いただきます。
- ・貴団体の取組をお伺いし、本学の取組などに関して直接お話いただきます。

Step4

「団体本登録」完了/学生へボランティア募集開始

団体本登録は年度末まで有効です。必要に応じて更新手続きを行います。登録年度内に別のボランティア活動を募集される場合は、「ボランティア募集シート」のみお送りください。

手続きの詳細はこちらをご覧ください

甲南女子大学
ボランティアに関するWebページ
https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/social_action/cead/offer.php



活動経験を通して、探求心や行動力、チャレンジ精神を育んでいこう！！

学生プロジェクト応援基金認定団体

～学生による自主的な社会連携活動を応援します～

学生プロジェクト応援基金とは、団体活動を通して、リーダーシップおよび社会に貢献できる人材を育成することを目的とし、本学学生の自主的な活動を支援するプログラムです。資金面や活動面のサポートを行い、学生の自己成長を応援します。

English♡Time



「英語を使って誰かの役に立つ」をスローガンに、学内外でのイベント開催、参加を通して自らを含む英語学習者、留学生を支援します。

MP2



在留インドネシア人の方々を大学生視点でお手伝いします。日本語学習や生活のお悩みなど、様々な交流を通してサポート活動をしています。

Sisterhood With



甲南女子大学生がファッションを軸に社会問題と向き合い、社会にアクションを起こしていく中で「自分らしさ」を追求し、挑戦するきっかけをつくります。

T×SDGs



T×SDGsは、多文化、多様性の頭文字であるTとSDGsを掛け合わせてつけられた名称で、「SDGsを幅広い世代に広めたい」が団体の活動目的です。積極的に企業や他大学と連携し、活動の幅を広げていきます。



Y.I.さん

シークス株式会社 勤務

(2026年3月 国際学部 多文化コミュニケーション学科 卒業)



未来の選択肢 実践力を身につけ、キャ

失敗したからこそ、成長した力

「MP2」に所属したきっかけは、専攻していたインドネシア語の授業を担当している顧問の先生に勤めていただいたことです。また、甲南女子大学の学生だからこそできる活動に取り組み、学年を超えてつながれるコミュニティに身を置きたいと感じていたことも理由のひとつでした。

活動では、学外でのボランティア活動を主に取り組みました。苦労した点として、メンバー内で合意が取れていても、連携先との連絡が十分に取れておらず実行できなかったり、思いついた内容が現実的ではなく、計画性がなかったりと、さまざまな失敗を経験しました。その失敗を積み重ねたからこそ、自身の小さな学びにつながり、「アイデアを実現するためのプロセスを組み立てる力」が身に付いたと感じています。

ひとりで考えず、助け合いを大切に

4月から社会人として新生活が始まることに正直不安もあります。しかし、この4年間の学生生活の中で、コミュニケーションを大切にし、ひとりで抱え込まず周りに頼ることの重要性に気づけたことは、大きな学びであり自分にとって価値のある経験となりました。そうした経験を体感できたことは、これから社会に出て働く上で必ず生きてくると感じています。勤務先では、これまでに培った経験をしっかりと活かし、「自分はこうしたい」だけで進めるのではなく、成功に向けたプロセスを丁寧に積み重ねながら、多くの人と協力して仕事に取り組んでいきたいと思っています。関わる人への感謝を忘れず、一歩ずつ着実に成長していきたい社会人を目指したいです。

2025年度は

8団体

多くの学生が実践的な学びを活かし、
社会で活躍しています！

バラエティスポーツ



スポーツやボードゲームを通して学部学科を超えて学生生活をより楽しめる交流づくりに取り組んでいます。学内だけでなく、地域ともつながれるイベントを企画・開催し、学校や地域をより盛り上げていくことを目指します。

'himawari'



企業や地域との連携活動を通じ、社会で必要な知識やスキルを身につけながら、社会に貢献。特に「防災・減災」に力を入れた活動を行い、災害弱者に優しく寄り添うことを目的に、女子大学生の目線で取り組んでいます。

留学生食育支援団体 for your health



本学から留学する学生に対して、食事という視点から支援し、留学先でも健康的に生活できることを目指します！本学に来ている留学生には、幅広い学部の学生と交流を持てるよう食を通して支援します。

和田家



文学部日本語日本文化学科和田ゼミで活動。企業と連携し、地域の課題解決と文化の理解、取り組んできたやさしい日本語を活かした淡路島のツアーを作成し、宿泊・滞在してもらえるよう魅力を発見することで地域の活性化に貢献します。

が広がる！ リアデザインを描く！

多様な学びで広げたコミュニケーション力

学生プロジェクトでは、2つの団体に所属していました。留学で得た学びを活かしたいと思っていたところ、帰国した先輩に声をかけてもらい、「English♥Time」に参加しました。また、授業で取り組んだ模擬国連の活動を通してファストファッション問題に興味を持ち、「Sisterhood With」に参加するきっかけとなりました。活動では異なる学年・学部の仲間や企業の方々と関わる中で、コミュニケーションの幅が大きく広がりました。また、団体活動で取り組んだ留学イベントでは、留学に不安を抱える学生の気持ちに寄り添い、丁寧に話を聞きながら助言することを心がけました。この経験を通し、相手の心情を汲み取る力が身についたと感じています。

人とのつながりで気づいた、私の大切な価値観

大学生活の中でも、サステナブルに関する産学連携プロジェクトとして参加したハロウィンをテーマにした展示会を企画・運営した経験は、現在の仕事にも活かされていると感じています。イベントに向けてメンバーと企画案を作成し、

その内容を基に企業の方々と話し合いを重ねてきました。こうした取組の積み重ねが実を結び、無事に成功という形で思いを実現することができました。自身が取り組んできた過程（コト）の中で生まれた人とのつながりに、大きな喜びとやりがいを感じました。こうした経験から、「人とのつながり」が自分にとって大切にしたい価値観であることに気づき、就職活動の軸のひとつとなりました。

現在、客室乗務員として働く中でも、一緒に働く仲間やお客さま、またその帰りを待つご家族やご友人など、さまざまな場面で人とのつながりを感じる瞬間があります。これからも、一つひとつの出会いや関わりを大切にしながら、日々の乗務に励んでいきたいと思っています。



R.N.さん
株式会社ジェイエア 勤務
(2025年3月 国際学部 国際英語学科卒業)

社会人としての考え方やキャリア形成、スキルを磨くヒントに！

外部講師による特別講義

本学学生に対して、社会人としての考え方やキャリア形成、自身のスキルアップにつながるよう、企業や団体等から講師をお招きして開催する「特別講義」を行っています。



「防災は楽しい。」
地域に根差す防災講座

NPO法人プラス・アーツによる「防災は楽しい～地域に根差す防災活動に必要なこと～」と題した講座を開催しました。講師に永田宏和理事長をお迎えし、地域に根付く防災活動を展開するためには「だれが」「何を」「どのように」取り組めばよいのか、実践例を交えてお話しいただき、地域防災のあり方を改めて考える機会となりました。



効果的な発信方法と
女性のキャリアプラン

本講座は、情報発信力の向上と女性のキャリアプランを育んでもらうことを目的に開催しました。講師には、多可町役場企画秘書課 吉田美千留課長補佐をお招きし、情報発信ツールを使った効果的な発信方法、発信者として大切にしていることや取材に対する思い、仕事の価値観などこれまでの広報活動を具体例にしてお話いただきます。



防災福祉コミュニティ
に関する防災講座

NPO法人プラス・アーツによる「防災お持ち帰り研修会」のスタッフ向け講座が開かれ、プラス・アーツが展開する防災体験プログラムの仕組みや活用方法について学び、その研修を通じて学んだ内容を、実際に運営側として、地域で活動する防災福祉コミュニティを運営する方々に対し、紹介・共有しました。



新聞を活用した
情報発信力講座

本講座は、情報発信力の向上と卒業論文やレポート作成において、AIに頼るのではなく、自ら「読み、考え、まとめ、書く力」を育んでもらうことを目的に開催。講師には、(株)神戸新聞社 NIE・NIB推進部の三好正文シニアアドバイザーをお招きし、インタビュー取材やフィールドワークの進め方、正確で豊かな文章を書くためのポイントについてお話しいただきました。

公開講座



3Dプリンターで
作成した葉

エンジョイ・ラーニング

プログラミングで創るアート ～ジェネラティブアートの世界へようこそ～

2025年度のエンジョイ・ラーニングは、好評だった昨年度に引き続き、本学の高尾 俊介准教授(文学部メディア表現学科)による、初心者の方でも楽しめるソフトウェアを使ったプログラミング講座を実施いたしました。参加者の方より、「『プログラミング』に苦手意識があったが、今日の講座では苦手意識を感じず純粋に楽しむことができた」との感想をいただきました。

今後も学び続けることの楽しさを知っていただくことを目的に、実用的な語学や文学、時代を反映した身近な話題など、さまざまなテーマの講座を開催してまいります。

連携協定一覧

官公庁

- 神戸市東灘区 (2006年7月14日)
- 兵庫県 (2015年7月24日)
- 兵庫県多可郡多可町 (2019年3月29日)
- 兵庫県神戸市 (2020年8月25日)
- 兵庫県高砂市 (2024年2月8日)
- 兵庫県芦屋市 (2024年4月30日)
- 農林水産省近畿農政局 (2025年3月12日)

企業等諸団体

- 芦屋交響楽団 (2010年3月9日)
- 大学コンソーシアムひょうご神戸 (2010年7月21日)
- 甲南大学 (2016年10月17日)
- 象印マホービン(株) (2020年8月25日)
- (株)マテックス (2024年6月1日)
- (株)ラビスタ ホル&リゾート 神戸須磨ソール (2024年6月1日)
- 神戸トヨペット(株) (2024年8月1日)
- (株)KUL (旧 (株)関西都市居住サービス) (2024年9月29日)
- 常盤電機(株) (2025年4月1日)
- (株)廣瀬商会 (2025年4月1日)
- ハイドサイン(株) (2025年4月1日)
- エム・シーシー食品(株) (2025年12月15日)

連携先の詳細は
こちらをご覧ください

甲南女子大学
連携協定に関するWebページ

https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/social_action/cond/agreement.php



社会連携をお考えの方へ

◇ 地域課題の解決に向けて、教員・学生と連携したい

社会連携活動は、その目的や内容に応じて多様なかたちで展開されています。本学では、こうした活動をより充実させ、スムーズに連携が進むよう、社会連携課へ寄せられる主なご依頼内容を整理し、コーディネートしています。企業、自治体、地域団体の皆さまとの協働を、より実りあるものにするために本学との連携をぜひご検討ください。

◇ 社会連携課へのお問合せ

☆ 社会連携活動（産官学連携、地域連携、ボランティア、公開講座等）に関するお問い合わせについては、「①氏名 ②ご所属 ③ご連絡先 ④お問合せ内容」を記載の上、社会連携課までメールにてご連絡ください。

（お急ぎの場合は、電話にてご連絡ください。）

なお、本学の教員と連携を希望される際は、本学HPの教員一覧に記載の連絡先に直接ご連絡いただいても差し障りありません。

☆ 本学の連携活動をまとめた「社会連携事業報告書（本冊子）」を連携の進め方や資金・協力団体・場所のご準備などについて、参考としてご覧ください。

手続きの詳細は
こちらをご覧ください

甲南女子大学
社会連携に関するWebページ
<https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/>



社会連携に関するQ&A

Q 「社会連携事業」とは何ですか？

A 「社会連携事業」とは、甲南女子大学が行う教育・研究活動の一環として、大学が持つ知識やアイデアを活かし、地域が抱える課題の解決に向けて、企業諸団体と本学の教員・学生・事務局が協働して取り組む事業です。

Q 甲南女子大学と連携して、何か新しい取組を始めたいのですが。

A ご相談は、甲南女子大学キャリアセンター社会連携課までお寄せください。ご相談の際には、課題や目的、連携内容、費用、役割分担など、連携に必要な情報をお伺いします。

Q 連携をお願いしたい先生に直接連絡をしても良いですか？

A 連絡先を公開している教員へは、直接お問い合わせいただくこともできます。社会連携課にご相談いただければ、課題に応じた最適な教育・研究活動や事業内容を一緒に検討します。

Q 先生を紹介してもらっても、うまく連携し事業実施まで進めるかが心配です。事業実施に至らなくても大丈夫でしょうか？

A 双方の合意に至らない場合は、相談の段階で中止しても構いません。

Q 学生に活動を依頼したいのですが、不慮な事故などに対する補償制度はありますか？

A 学生の社会連携事業活動中の事故による傷害等に対する保険として、入学時に全員が「学生教育研究災害傷害保険」等に加入しており、一定の補償が備わっていますが、活動に係る参加者の保険加入の有無について確認させていただきます。

Q 個人的な活動でも連携することは可能ですか？

A 甲南女子大学では、連携事業の運営管理を継続的に行っていただくため、原則、自治体や企業等との連携を対象としています。

Q 「社会連携事業報告書」に掲載されている事業以外の内容でも連携は可能ですか？

A 「社会連携事業報告書」に掲載している事業は甲南女子大学で行っている事業の一例です。各企業諸団体の課題に応じて事業を検討いたします。

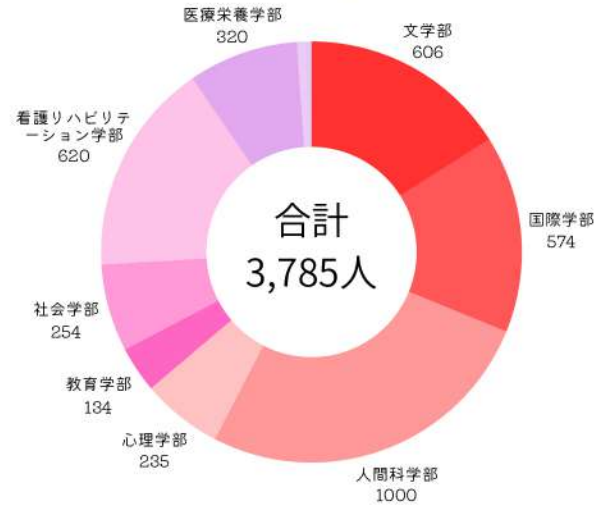
学部学科別在籍学生数

2026年4月15日現在

学部	学科	在籍者数
文学部	日本語日文化学科	286
	メディア表現学科	320
国際学部	国際英語学科	274
	多文化コミュニケーション学科	300
人間科学部	心理学科	181
	総合子ども学科	317
	文化社会学科	254
	生活環境学科	248
心理学部	心理学科	235
教育学部	子ども教育学科	134
社会学部	総合社会学科 メディア社会学専攻	108
	総合社会学科 ビジネス社会専攻	58
	総合社会学科 生活環境学専攻	88
	看護リハビリテーション学部	看護学科
医療栄養学部	理学療法学科	194
	医療栄養学科	320

大学

● 文学部 ● 国際学部 ● 人間科学部
● 心理学部 ● 教育学部 ● 社会学部
● 看護リハビリテーション学部 ● 医療栄養学部
● 人文科学総合研究科 ● 看護学研究科



		博士前期課程	博士後期課程	
大学院	人文科学総合研究科	言語・文学専攻	2	0
		心理・教育学専攻	19	0
		社会・文化環境専攻	0	3
	看護学研究科	看護学専攻	8	10

就職サポートについて

キャリアセンターは、誰一人取り残さない手厚い個別指導が特徴です。ES添削や面接練習はもちろん、低学年からのキャリア教育に加え、入学から卒業まで一人ひとりに寄り添い将来を共に考えます。さらに、社会連携事業での経験を職業観の形成へと促し、学生の将来のキャリアに繋がられるよう、進路決定まで一貫してサポートしています。

◇ 学生へのサポート内容

就職情報提供

- ・ 就職セミナーの開催
- ・ 求人票公開

個人面談によるサポート

- ・ 就職相談 書類添削 面接練習など



年間の学内企業説明会
参加企業数

延べ **218** 社

年間の面談実施回数
1学年卒業生数約1,000人

約 **3,000** 回



ACCESSMAP



キャリアセンター 社会連携課
(9号館)



お問合せ先



甲南女子大学
キャリアセンター 社会連携課
〒658-0001 兵庫県神戸市東灘区森北町6丁目2番23号
TEL : 078-413-3811
FAX : 078-413-5217
E-mail : kouken@konan-wu.ac.jp
HP : <https://www.konan-wu.ac.jp/>

窓口業務の取り扱い日時

月曜日～金曜日 9時～17時
休業日 ● 土曜日 / 日曜日 / 祝日
● 夏季 : 8月7日～8月17日
● 冬季 : 12月29日～1月5日
※年によって異なります。

発行日 : 2026年5月1日



こちらからアクセス！
甲南女子大学Webサイト
<https://www.konan-wu.ac.jp/>



甲南女子大学
社会連携に関するWebページ
<https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/>



Instagramはこちら！
甲南女子大学社会連携課
<https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/>

